

令和6年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会(小学校外国語)

1 目的

各小中学校及び義務教育学校の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び評価に関する説明・講義等を行うことにより、小学校外国語科の授業力向上に資する。

2 主催 大分県教育委員会

3 期日 令和6年7月2日(火)

4 場所 別府国際コンベンションセンター (ビーコンプラザ) 国際会議室



5 内容

教育委員会挨拶

大分県教育庁義務教育課 課長 小野 勇一

言語活動を行っている小学校95.5%と高い。低学力層が多く、二極化が課題。APU 学生派遣の活用を。教科調査官の話の聞けることは貴重なので、よい機会にしていきたい。

行政説明及び協議「大分県における外国語科の課題と授業改善」

説明者:大分県教育庁義務教育課義務教育指導班主幹兼指導主事 田代 和馬

中学校の先生方にも参加していただける機会は貴重。各管内で、本日の内容を咀嚼して還流していただきたい。

全国調査結果より、経年変化を見ると、着実に英語力が上がっていることが明らかである。一方で高校入試の結果を見ると、以下の2つのことがわかる。

①R5もR6も同じような分布をしている

②他教科に比べて10~19点の生徒が多い

→初期段階でつまづいているのではないか

英語の愛好度の結果を見ると、小学校は横ばいであるのに対して、中学校は下がっている。また、この生徒たちは小学校で教科化された時期の子どもたちであるので、小中の接続に何か課題がある可能性がある。しかし、コロナの影響を受けた子どもたちなので、思うように活動ができなかったことが影響を与えたことも考えられる。小中連携は進んでいる。小学校外国語科における課題として、資料の内容(P7)が挙げられた。言語活動を通して、確実に資質・能力を育成することが重要となる。知識及び技能を活用して、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。「話すこと」については、伝えようとする内容を整理して話すことができるようにする指導が必要。発表内容を全て書いて、場合によっては振り仮名をつけて、それを見ながら話すというのは「読むこと」にあたる。「書くこと」については、書き写すことができるようにすることがゴールなので、見ずに書くことは難しいことを理解する。言語活動を通して確実に資質・能力を育成するためには、単元のはじめに、評価を意識して(C層の子どもたちをB層に引き上げるための支援を準備して)指導にあたっていきたい。

協議

<佐伯市立上堅田小学校教諭>

(単元の目標)中学校の先輩や先生に、中学校生活に向けた自分の夢や希望を伝えて、中学校生活への期待をもつために、入りたい部活動や楽しみたい学校行事について伝えようとする内容を整理して発表したり、語順を意識しながら音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりすることができるようにする。

(期待する児童の姿)I'm ~. I like volleyball. I can play volleyball well. I want to join the volleyball team. I want to enjoy the school trip. Please tell me your school life.

ビデオインタビューを用いたり、中1と交流させたりすることも考えられる。

まとめ

言語活動が目標ではなく、資質・能力の育成が目標である。させっぱなしにならないようにするために、児童に期待する姿を具体化してほしい。



講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価」

講師：文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 早川 優子 氏

小中の先生方が一緒に授業を創る研修を見ることができてよかった。大きな意義がある。文部科学省に戻って報告したい。

小学校の先生の感想：「中学生のつまずきを知ることができた」

中学校の先生の感想：「これまで小学校の授業をちらっとしか見たことがなかったが、具体的に知ることができた」

田代指導主事の単元構想例の中に、非常に参考になる英文があった。単元を通しての相手意識、目的意識を明確にして授業を積み上げていくことが大切である。

まもなく英語教育実施状況調査の結果が公表される。「話すこと」(発表)のパフォーマンステストを小学校でも行う必要がある。その際、原稿や英文の書かれたメモを見ながら話すということ避けたい。「書くこと」は学校間格差が大きい。四線上にきちんと英文を書くことができるように指導してほしい。個別の知識がどれだけ身に付いたかではなく、外国語を使って何ができるようになったかを大切にする。中学校・高等学校の生徒や教師の英語力は向上している。

全国調査の問題から、思考力・判断力・表現力を問う問題がどういう問題なのかを理解しておく。話すこと調査の結果からは、発信スキルを育成する必要があることが明らかである。外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方について正しい理解が不可欠である。言語活動を正しく理解し、それを通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

スモールトーク例より、パターン1は文法寄り、パターン2は児童が聞きたくなる内容である。どちらの活動を積み上げていくかによって、子どもたちの資質・能力に差が出る。やり取りの中で、語句や表現に気付かせることが大切である。教師と児童でやり取りをしたり、児童同士でさせたりを繰り返しながら継続的、計画的に指導する。

<小学校の先生>

単元のゴールに立ち返りながら指導する。「大きな滝」など、どう言えばいいかを検討する。形成的評価を行う。

先ほどの先生がおっしゃったように、目的や場面、状況に立ち返らせながら指導する。教師が説明しすぎないことも大切である。視覚情報を提示しながら、音と文字と意味が結びつくように指導することが大切である。視覚情報をヒントに文構造を意識させる。

子どもが言った英文を全て板書する指導者が多いことを危惧している。小学校外国語活動を丁寧に行うことも重要である。「聞くこと」や「話すこと」に慣れ親しませる。

指導と評価の一体化について、単元の目標につなげるという意識が大切になる。毎時間評価を行うのは難しいので、評価場面を適宜設定すればよい。子どもたちが何をどこまでできるようになっているかを把握するために、パフォーマンステストを計画的に行う。その際、ALT に補助を依頼したい。小中連携にもつながる。コメントやフィードバックも協力してもらおう。

小学校で目指す具体の姿として、「話すこと」は正確性と内容のつながりを意識して指導にあたり、「書くこと」はイラストも添えながら書かせる。「聞くこと」「読むこと」も、目的や場面、状況を大切にする。教科書のリスニング時においても、目的や場面、状況を意識する。

小中連携において、小学校で何ができるようになっているのか、何が苦手なのかを把握しておくことが大切である。Unit0 の取組のように、小中の接続を大切にしてほしい。

目の前の子どもたちのために、教師自身も日々、アップデートを。